

CBC NEWS

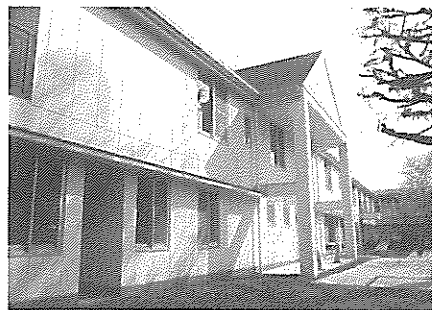
CBC NEWS
原吹き
vol.13

引越を祝福された主

やっと学生寮の引越が終わった。わずか三十メートル程度の移動とはいえ、感謝と感傷が入り交じった引越だった。

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団の半世紀にわたる歴史を生み出してきた揺り籠のような寮と、全国各地・海外諸教会の犠牲的な献金によって完成した学生寮が互いに向き合っていたのも束の間、四月十六日に始まった解体作業によって懐かしい寮があつという間に消えてしまった。先輩達がモップで磨き

上げた廊下の板だけは思い出のためにと残してある。勉強ではなく力仕事の毎日で疲労困憊は避けられない日々であつたが、哀れみ深い主は今までにない霊的なお取り扱いを学生の間に下さっている。授業のある日ならば当然時間制約があるが、作業工程を柔軟にこなすことのできる毎日だったので、朝のチャペルに、水曜日の祈禱会に、たつぷりと時間をかけて油注ぎをいただくことができた。八時十五分に始まったチャペルが十時になっても祈りの霊がおさまらないというときもあった。「とりなしの祈り」の水曜日也使徒二章さながらの集会が繰り返されている。その結果、学生のうちに救霊の炎が燃え広がり、作業の合間に三々五々と自発的に小グループで、時には一人で、週に何度も駒込駅や公園に出かけて行く姿が見られる。「伝道に出かけるのがこれほど嬉しいという経験は初めて



だ」という学生は一人や二人ではない。作業中でも断食連鎖祈禱も行われていた。忘れられない出来事の一つは、学生寮のベッド・戸棚・勉強机の取り付けをするためにヴァージニア州の一教会から全額負担で駆けつけて下さった六名のボランティアとの心温まる交流であつた。最後の祈禱会で大きな輪になって感動の涙を押さえながら「私たちは一つ」と歌った歌声は、四月十六日に帰った彼らの心に今日もよみがえっていることであろう。

静心

真新しい木の香のする部屋で、まだ誰も使っていない机に向かう。窓の外には、山も田畑も見られない。「ああ、ここは駒込山なのだ」と思われる。

「ここを天国にするのも、牢獄にするのもあなた次第です」と北野先生は入学式でそのように語られた。

新しい寮への引越しを経て、いよいよ授業も始まった。私にとつてこの駒込山はどのような場所になるのだろうか：

ほんの一年前にはここへ来ることなど、考えもしなかった。しかし、今私は毎日主の豊かな臨在の中で、過ごしている。訓練は始まった。いや救われた時から、既に始まっていたのだ。「イエス様、私は後ろを振り返らず、イエス様の示される道だけを見つめて行きたいです。」そう祈ると、故郷で聞き覚えのある鳥の鳴く声が聞こえた。

(H・F)

CBC NETWORK

・食堂、倉庫室を含む学生寮の竣工点検が終了し、学校側へ引き渡しが行われた。
・一九九九年度入学式が四月六日に行われた。引き続き七日、八日の二日間、聖別式が行われ上原師がご奉仕された。四月九日から二十四日にわたって、旧男子寮・女子寮から新学生寮への引越し作業が行われ、新学期の授業は四月二十七日より開始された。
・旧男子寮の解体作業は四月十六日から、旧女子寮の解体作業は四月二十二日から行われた。旧男子寮跡地は五月六日から文化財発掘調査が開始されている。
・四月四日から十六日までの約二週間、米国バージニア州より六名のボランティアの方々が来られ、学生寮のロフトベツドの取り付けなどの作業をして下さった。四月十四日にはボランティアの方々を迎えて幸いな祈禱会を持った。
・五月三日から五日に、教団創立五十周年を記念する第三十

六回全国聖会が開催された。
・食堂、倉庫室を含む学生寮の竣工式が五月三日に行われ、工事関係者、建設委員が参加された。
・五月十三日に久保田潔師がルーサーライス・セミナーからM.D.I.V.を取得された。
・聴覚言語障害者伝道部長、楠章三師による特別講義が五月十九日に持たれた。
・五月三十一日に毎年恒例のスホーツ大会が開かれ、学生たちは野外で汗を流した。
【お詫びと訂正】
九九年三月一日号の本紙に誤りがありましたので、お詫びして訂正致します。
一面中段(誤)一九九九年度八面上段(正)一九九九年(誤)入学者は十三名となる。(正)一九九九年度の入学者は早期入学試験、本試験、関西分校からの進級者を含めて、男子五名、女子七名の計十二名となった。

後援会のご案内

中央聖書学校が教団の伝道者養成機関として発足以来、すでに四十九年を数えておりますが、その間多くの方々のご協力と献げ物と奉仕によって幾多の伝道者、働き人がこの学舎から輩出されたことは感謝であります。

さらに学校の設備に充実とゆとりのある運営がなされるためには、多くの方々のご賛同を必要としております。どうぞこの点をご理解いただき、是非本会にご入会くださるよう心よりお願い申し上げます。

中央聖書学校後援会

後援会入会要領

個人会員 一口年五千円
法人会員 一口年一万円

☆連絡は中央聖書学校内後援会宛にお願いいたします。

編集

後記

神学校に入学して二ヶ月が過ぎようとしている。今までと違う環境に身を置く時、何かしら新しい気持ちになる。今まで感じなかったことを発見して驚き、今まで出来なかったこと、しなかったことにチャレンジしている。

節目節目で自然と湧き上がる新しい気持ちは、とても心地よい。そんな新しい気持ち、そして主から与えられる新しい恵みを、特別な日や季節だけに限定することなく、日ごとに深く感じたい。

今、神学校に吹いている新しい風をこの身に受けながら、主がなされる御業に期待して、今日も主の前に心を注ぎ出す。

(S・H)

編集スタッフ

別宮 健一 田中 千香子
菅原 洋子 内田 信恵
日吉 成人 淵上 博子
編集責任者 白石 禎男
事務局 中央聖書学校
豊島区駒込三・一五・二〇

FAXTEL 〇三・三九一・八・四九二五
〇三・三九一・八・四〇六四

シリーズ 献身 Vol.13



母教会の夏のキャンプで、主は「あなたがたのからだを神に喜ばれる生きた聖なる供え物としてささげなさい。」と語りかけて下さいました。そして、牧師の招きに応じ献身を表明しました。けれども実際には、父の会社が倒産して家計の一部を支えてきたのです。どうしてこのような環境で、聖書学校に入ることが出来るだろうか、その決心は鈍りました。しかし、私が迷っている間、「わたしよりも父または母を愛する者は、わたしにふさわしくない。」(マタイ十章三十七節)の御言が心を針のように刺し続けました。私はその痛みに耐えかねて、はつきりと決心しました。その時に道が開かれていたのを知りました。

聖書学校で学んでいる間に、宣教師になりたいという思い

が起こされました。けれども今とは違いアメリカからサポートを受けていた時代です。そのようなことを口にしたなら、一笑に付されるのが関のやま。他の人に祈ってもらうこともできず、ただ主の導きを求めるだけでした。卒業後は浜松教会と教団出版部で働きしました。ある時、超教派の宣教ゼミナールに出席し、「わたしはだれにも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。」(黙示三章八節)の御言が与えられました。そしてフィリピンへの留学の道が開かれ、卒業と同時にフィリピンへの宣教師として任命されました。

宣教師として十一年働きましたが、健康を害して帰国しました。その間も必要に応じて主は適切な御言を下さいました。そして歩んで来た道を振り返る時、主の御言通りに道が開かれ必要が与えられたと言えます。現在、中央聖書学校の図書室で働いております。日々、主の御言に生きることを祈り求めています。

神学校に
与えられた恵み

▽思わぬ贈り物
昨年十二月末、ペンシルバニア州の弁護士事務所から一通の手紙が届いた。そこには二千ドル(約二十四万円)の小切手が同封されていた。手紙の内容を読んでもみると、癌で亡くなったジュール・ランベック氏の遺産配分だという。その方の顔を思い出すのに相当の時間を要した。というのはランベック氏夫妻との出会いがほんの五分程度でしかなかったからである。混雑した東京駅で「ドゥー・ユー・スプーク・イングリッシュ？」とゆつくり話しかけられ、成田に行く電車まで連れて行ってあげた、たったそれだけであつた。ただ、敬虔なクリスチャンであつたご夫妻の家の娘の大学のすぐ近くにあり、後日彼女がクリスマスに招かれたという経緯はある。その後、夫妻は米国東部に引越

しされ、昨年ご主人が召天されたのであつた。この二千ドルは換金されて、同じく召天された方々の遺志で捧げられた献金同様、CBCの奨学金に加えられている。

▽建築献金に
六百円のレフタ
その封筒を見るとすぐ小学生だとわかる筆跡だった。二年生のジェシカ・フィンチちゃんが一生懸命書いてくれた手紙を判読すると、日本に献金したかったのだからお金がなかったのだから祈っていたのだそう。ある日、お隣の犬のお守りを半日してほしいと頼まれ、そのお札に五ドルいただという。それをそっくりそのまま(しわくちゃの紙幣で)送ってくれたのには感動した。きっと主がそのレフタを祝してくれると信じる。もちろん建築献金に捧げ、領収書も発行していただいた。今では、紹介してあげた日本の小学生と文通しているとのこと。

(K・K)

YUSEI

SINNYUSEI

SINNYUSEI

SINNYUSEI



池田佳奈

主の御名をほめたたえます。自分の行程を走り終え、福



山本美香

「群衆を見て、羊飼いのいない羊のように弱り果てている彼らをかわいそうに思われた。収穫は多いが働き手が少ない。」マタイ九章三十六、三十七節。私はろう者の家庭で育ちました。普通でも働きの人が少ない中、ろう者の為の働き人は更に少ないのではな

たちの



身

音をあかしする任務を果し得さえしたら、このいのちは自分にとつて、少しも惜しいとは思わない。」の御言葉から献身を決意しました。足りないさを覚える中で、主は御言葉と交わりを通して支えて下さり、召しの確認をさせ続けて下さいました。全てを保証して下さる真実な主に委ね、学びと奉仕を通してイエス様を明確に具体的に伝える者と仕立て上げられたいと願います。



内田信恵

主に仕えて生きたい。しかし、居心地の良い場所にとどまっていたい。自分勝手な思いや不安以上に、献身をお願い止まらせていたのは両親の反対でした。主は「わたしのために、また福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子、畑



奥田冬樹

今から十四年前の関東聖会の第三回目の聖会の時、献身の招きがあり、そこで私は立ち上がりました。その後、その召しが本当に神様から来ているか悩み、御言葉を求めて祈りました。その翌朝、まだ布団の中にいた時、心の中に御言葉が響きました。「人間をとる漁師にしてあげよう。」

を捨てた者で、その百倍を受けない者はありません。」とマルコ十章二十九、三十節の御言葉により、私を励まし続けて下さいました。主の導きを感じ、喜んで訓練を受け、学んでいきたいと思ひます。

SINNYUSEI

SINNYUSEI

SINNYUSEI

SINN

主の御名を賛美いたします。



重本 基

九十一年にエレミヤ一章四
五節により献身の召しを受
けたが「私の様な者が」と戸
惑っていた。祈り続けていく
中で神様が一つ一つ教えて下
さり、九十八年の関東聖会で
献身者の為の按手の祈りを待
っていたステージ上で「私の
子羊を養いなさい。」という
御声が二度、全身をつらぬく
ように迫ってきた。確信、力、
平安に満たされ、主に応答し
た。今年夫婦共に入学でき、
感謝している。主に用いられ
るよう、どうぞお祈り下さい。



奥田由美子

わたし



南犬

私が献身するきっかけは牧
師である父の召天でした。父
の厳しい病との戦いの中で
神への揺るぎない信仰を通し
て、私は本当の信仰、クリス
チャンの姿を知りました。そ
して父のように主に従ってい
きたいと思うようになりました。
私は父の召天を思うとき、
命がけて私を救いに導いてく
ださったイエス・キリストを
思います。私のありのままの
姿で受け入れ、「私に従って
きなさい」(マタイ四章十九
節)と導いて下さった主に心
から感謝いたします。

全てを益とされる主を心か
ら賛美します。
私は大学生の頃、心の傷つ
いた少年達と接していました。
その中で知ったことは、自分
の愛の無さでした。一人の心
をいやすためには、主の愛を
ダイレクトに伝えるしかな
い。このように献身の思い
に迫られて祈っていた時、ル
カ十章三、四節の御言葉をい



竹中友美

中央聖書学校学生募集

主の御声を聞いている者よ、来たれ!

入学資格: 受洗後2年以上を経た忠実な教員

高校卒業以上

住所: 〒170-0003

東京都豊島区駒込3-15-20

電話番号: 03-3918-4925

※入学案内は学校事務所にお申し出下さい。

祈りの中で百%神に従って
いない自分の姿を示されまし
た。マルコ八章三十四、三十五



日吉成人

ただきました。
「さあ、行きなさい。」主の
愛を外に押し流したいという
思いでいっぱいです。

☆☆☆ 教職インタビュー Vol. 5

ダビデ・ハイムス師

今回は、中央聖書学校教授のダビデ・ハイムス師にお話しを伺いました。先生は常にユーモアを絶やさず、公私に渡って学生とよく交わってくださる、素晴らしい先生です。今年度前期においては「ヘブル語」「ヘブル語講読」「ダニエル書」「小預言書」「イザヤ書」を教えてください。

新聞部: 先生の講義は、とても勉強のやりがいがあると学生たちは言っていますが、講義のためにどのくらいの準備をされていますか。

ダビデ師: あの一、例えば毎年度教えている科目では、各ノートを復習するうち、1、2冊、新しい本を読み、また聖書の日本語訳義の講義であれば、新しい注解書を読みます。時間的に難しいですね。今回は5科目だから毎週10時間の講義に、簡単に5~8時間プラスだね。各講義でいつも新しいものを取り入れています。



新聞部: 先生が講義でモットーとされていることは何ですか。

ダビデ師: この学校は伝道者・牧師を養成することですから、学問的ではなく、特に牧会で聖書を解釈できるようにするための土台作りですね。だから、大枠の構造を説明しながら方法論を教えているんですね。

新聞部: 先生の座右の銘を教えてください。

ダビデ師: パスカルの "Faith has its reason which reason can not understand."

新聞部: フッフ (苦笑)、日本語で言いますとどうなりますか。

ダビデ師: それはね、「信仰は理性を持ち、理性はそれを理解できない」。だから、信仰というもののうちで独特の理性や論理があるんですね。しかし、これは一般の世間的論理では理解できないところがあるんですよ。

新聞部: 最後に、CBCの新入生に向けて何かメッセージをお願いします。

ダビデ師: CBCでは二重の働きを体験するべきですね。その一つは、牧師になるための根本的な技術、つまり単なる学問ではなく将来牧会していくという実践的な面での学びですね。それと同時に、伝道するという生きがいを持ち、祈りの生活、ディボーションライフを持つということですね。バランスではなく、両方を押して行く、炎とそれを燃やす材料という関係です。

また、この3、4年間の中で、その枠組みの楽しさを知る。聖書を学ぶことに惚れちゃう、祈りや伝道を義務ではなく楽しいものとするんですね。

最後に、この学校で実践的に体験したことを神学的に処理することですね。これは牧師になるための訓練です。ただ方法論をうまく用いるのではなく、聖書に合致しているかどうかをよく考えることが大切です。

行って来ました～キャラバン伝道～

初日は駿河教会に行きました。午後から公園伝道があったのですが、まずそこで驚かされました。「信徒の方が先に公園に行って待っておられますから」と言われ行ってみたらその待つておられたお方



「楽しかった！」の一言につきるキャラバンでした。その中で一つだけ証させて頂きました。

主は素晴らしい！

中央聖書学校
四年 王子 久美



というのは、私たちのおばあちゃん位の年齢の方ばかりだったのです。毎月二回必ずその方々が公園で伝道されている、というのを聞いて頭が下がりました。感動してその日の公園伝道は皆燃えました。普段よりも子供達も多かったようで、イエス様を信じる決心をしたお友達もたくさん与えられました。本当に主は素晴らしい！

他に伊豆仁田、富士宮、島田、浜松北、豊橋、浜松の教会にお世話になりました。それぞれに主の御業を見ることができ感謝すると共に、御教会、先生方、信徒の方々の祝福をお祈り致します。

特に大垣サンライズチャペルと、岡崎神召教会の子供集会は忘れられないひと時となりました。両子供集会とも、十五、二十の子供が集会に集まってくれました。グビデとグリアテの戦いを人形劇で行ったところ、子供達が目を輝かせ食い入るように見てくれました。グビデがグリアテを倒した時などは、歓声が上が



るほどでした。聖書の話聞く子供達の姿を見ていて、子供伝道が難しいと言われている昨今ですが、今も昔も変わっていない子供達の目の輝きを見て励まされました。三月二十二日に浜名福音荘で行われた東海教区の音楽研修会で、その後、子供達が日曜学校に来るようになったことや、幼稚園で子供達が賛美を歌っていたときには、今も働きたもう神様の御名を賛美せずにはおられませんでした。

巡回させていただいたすべての教会で、主にある良き交わりが与えられ、また心あるもてなしを頂きました。心から感謝致します。

今も生きて働かれる主

中央聖書学校
三年 井桁 正巳

SINNYUSEI

SINNYUSEI

SINNYUSEI

五節の御言葉が与えられ、献身という形で主に従う決心をしました。献身することにより失うものよりも、捧げたからこそ与えられる神の恵みの大きさを求めました。神学校で主を知ることが切に求めて御言葉を学び、祈りにて砕かれ、救霊という神の尊い働きに通り良き管として用いていただきたいという願いを頂き、主の働き人として生涯を捧げます。



淵上博子

昨年の夏、CAキャンプの時に私は聖霊に満たされ、「私はあなたを用いたいのだ。」という言葉を聞きました。実は五年前に献身の招きに「私も神様の為に働きたい。」と想って立ちましたが、その時は伝道者になるとはこれっぽっちも考えていません



大江 励

でした。けれども神様が私を再び招いて下さった時、心から主に仕えよう、伝道者になつて主の為に働きたいと決心しました。今このCBCに招いて下さった主に感謝します。

主はこう仰せられる。「羊飼いが、雄獅子の口から、二本の足、あるいは耳たぶを取り返すように、サマリヤに住んでいるイスラエルの子らは、寝台の隅やダマスコの長いすから救い出される。」この言葉は私にインパクトを与えました。天の父はこんなにまで、私のことを愛して下さっているのかと。二本の足でもいい、耳たぶでもいい、それを取り返すために、神自ら、獅子に挑んで下さった。私はこの神の熱烈な愛を持って、日本の魂の救いに挑みます。



荻野倫夫

ある人々は、自分の欲するように生きる人々は全て至福であると言います。「でも、それは確かに虚無です。というのはふさわしくないことを欲することは、正しく最も悲惨なことだからです。」(アウグスティヌス/至福の生)

確かに悲惨でした。単なる欲望の追求は虚無をもたらしました。求めるべきものを求めることが「至福」へとつながるのであります。私の求めるべきものは献身の道です。招いて下さった主に感謝。



三木和恵

無事に入學式を終える事が出来、お祈り下さったみなさ



主に心から感謝いたします。献身を決意するとき大きな不安が私の中にありました。しかし神様はダニエル書十章十九節の御言葉を通して励まして下さり、何故この聖書学校へ導いて下さったのかを最近また改めて教えて下さっています。救われていない魂に對し神の愛を伝え、私を通して主が現れて下さり、通り良き管として用いて下さる事を信じ、歩いて行きたいです。